「佐渡島の金山」に係る世界遺産委員会決議の概要

1. 記載の可否と基準

- 「佐渡島の金山」を、基準(iv)に基づき、世界遺産一覧表に「記載」する。

基準	価値
iv	「佐渡島の金山」は、世界の他の地域において採鉱等の機械化が進んだ時代に、高度な手工業による採鉱と製錬技術を継続したアジアにおける他に類を見ない事例である。

2. 勧告

- 締約国が以下の事項について配慮することを勧告する。
 - a) 「相川鶴子金銀山」の緩衝地帯全域を重要文化的景観に選定し、保護措置を強化すること。
 - b) 事業規模ではなく、提案されている顕著な普遍的価値に対する潜在的影響に基づいた遺産影響評価の仕組みを、景観計画に組み込むこと。
 - c) 将来にわたって、考古学的調査が一貫した学術的見地から行われるよう、長期的な調査戦略を構築すること。
 - d) 地下遺構への影響が最小限となるよう、森林管理のガイドラインを策定すること。
 - e) 鉱業採掘が行われていたすべての時期を通じた推薦資産に関する全体の歴史を現場レベルで包括的に扱う説明・展示戦略を策定し、施設・設備等を整えること。¹
 - f) 収容力調査の実施及び来訪者管理戦略の策定を行い、観光客の増加が推薦資産に負の影響を与えないようにすること。
 - g) 包括的保存管理計画より前から運用されていた計画を見直し、それぞれの内容が、提案されている顕著な普遍的価値の長期的な保全と一貫しているか確認すること。
 - h) かつて採掘が行われたことが明らかになった区域について、将来、国の史跡として指定することを配慮すること。

3. 今後のアクション

- 締約国に対し、イコモスの勧告に沿って、準備が整い次第、修正された資産の境界線と緩衝地帯を記した地図を提出するよう要請する。
- また、第 48 回世界遺産委員会での審議のため、締約国に対し、2025 年 12 月 1 日までに、上記勧告の実施に関する報告書を世界遺産センターに提出するよう要請する。

¹ 世界遺産委員会は委員会のサマリー・レコードに記されている決議 46 COM 8B. 18 のパラ 4. e) で言及された、鉱業採掘が行われていたすべての時期を通じた推薦資産に関する全体の歴史を現場レベルで包括的に扱う説明・展示戦略及び施設・設備等に関する日本のステートメントに留意する。